

兵衛たまはりてあて宮にすもりになりはじむるかりのこ御らんせよとて奉ればあて宮くるしげなる御ものねがひかなとの給

〔空穂物語藏開上〕宮にまいり給へば宮

かへりてぞちよもみるべきかいのなかにこもれるたづはいくよふべきぞ

〔伊勢物語下〕むかし男ありけりうらむる人をうらみて

鳥の子をとをづ、とをはかさぬとも思はぬ人をおもふ物かは

〔古今和歌六帖六〕かひ

あしたづのかひこめくつるすごもりのつひにかへらぬ身とや成なん

鳥の子はかへりて後ぞなけれける身のかひなきを思ひしりつ、

〔守貞漫稿六生業〕江戸ニ在テ京坂ニ無キ陌上ノ賈人略○中湯出鶏卵賣

鶏卵ノ水煮ヲ賣ル價大約廿文詞ニタアマゴト云必ズ二聲ノミ一聲モ亦三聲モ云ズ

因ニ云四月八日ニハ鶏トアヒルノ玉子ヲ賣ル江俗言傳フ今日家鴨ノ卵ヲ食スル者ハ中風ヲ

不病ノ呪ト京坂無此事也

〔倭名類聚抄十八羽族〕卵略○中野王案音字俗云卵化也

鶺 呂氏春秋云雞卵多鶺音段和名野王按鶺者卵不孵也

〔箋注倭名類聚抄七羽族名〕按須毛利巢守之義謂壞卵不孵長在巢中如守巢者然也

〔段注說文解字十三下〕鶺卵不孚也爪部曰孚者卵即孚也从爪子不孚者卵坼不成樂記曰卵生者

卵多鶺管于五行篇羽從卵段聲徒玩切十四部

〔類聚名義抄十雜〕鶺音段鳥卵不孚スモリ鶺音字カヘル

〔倭訓栞前編六〕かへる 倭名抄に卵のかへるは鶺といふ鷹のかへるは鶺也二歳をふるをいふ